

## ウイルス担当(平成19年度)

### 病原体定点調査(感染症発生動向調査事業)

#### (1) インフルエンザウイルス

平成19年10月から平成20年4月までにAH1N1型ウイルス116株、AH3N2型ウイルス14株、B型ウイルス5株合計135株のウイルスが分離または遺伝子が検出された。このうちAH1N1型ウイルスについては平成19年10月17日、18日(第42週)の瀬谷区定点検体から2株分離され、15日の港北区定点検体から1件遺伝子が検出された。その後11月から分離数は増え始め、1月第5週をピークとして4月まで分離・検出された。一方、AH3N2型ウイルスについては平成20年1月21日(第4週)の保土ヶ谷区定点検体から1株分離され、4月まで散発的に分離・検出された。他方、B型ウイルスは平成20年2月4日(第6週)の瀬谷区定点検体から1株分離されたが、その後、3月まで少数分離されたのみであった。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH1N1型ウイルスの多くはワクチン株であるA/Solomon Islands/3/2006と抗原性が異なっていた。また、AH3N2型ウイルスはワクチン株であるA/広島/52/2005と抗原性が少し異なっていた。一方、B型ウイルスはワクチン株であるVictoria系統のB/Malaysia/2506/2004に反応せず、山形系統のウイルスであった。

#### (2) アデノウイルス

一年を通じて26株分離された。小児科定点では、夏季を中心に全国的にも流行した2型が13株分離された。重複感染として、アデノウイルス2型分離された5検体からは、AH1N1型1株、コクサッキーウイルスA2型、10型、16型各1株分離検出された。型未同定のアデノウイルス分離された1検体からも、AH1N1型1株が分離された。このほか、眼科定点の流行性角結膜炎患者由来の4検体からも型未同定のアデノウイルスが分離された。

#### (3) エンテロウイルス群(ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71)

夏季を中心に、15種37株が分離検出された。分離されたポリオウイルス2株は、OPV由来ワクチン株であった。手足口病患者由来の4検体からコクサッキーウイルスA16型3株、エンテロウイルス71型1株が分離された。ヘルパンギーナ患者由来の8検体から、コクサッキーウイルスA5型4株、コクサッキーウイルスA10型3株、コクサッキーウイルスB3型1株が分離検出された。また、無菌性髄膜炎患者の5検体からコクサッキーウイルスB5型4株、エコーウイルス30型1株が分離検出された。

#### (4) RSウイルス

主に咽頭炎、気管支炎患者由来の検体から一年を通じて58株検出された。冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つであるが、夏季にも散発例がみられた。

#### (5) 麻疹ウイルス

ワクチン型であるA型が3株、全国的に流行しているD5型が12株検出された。

### ウイルス性食中毒等の検査(平成19年度)

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例(感染症の事例も含む)に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成19年度の検査数は、236事例1,452件(患者941件、従業員468件、食品118件)で、昨年度の事例数(248事例)、検査数(1,779件)と比べてやや減少した。従業員468件中の22件は、陰性確認のために平成16年より実施している有料依頼検査である。

全236事例中の142事例(60.2%)はノロウイルス陽性、5事例はロタウイルス陽性(4事例はA群ロタ

ウイルス陽性、1事例はC群ロタウイルス陽性)、2事例はサポウイルス陽性であった。今年度のノロウイルスの遺伝子型は、G1型が22事例、G2型が114事例、G1とG2型の混在が6事例であった。例年同様にG2型が主流であることには変わらないが、昨年度はG1型が2事例であったのに対し、今年度はG1型およびG1とG2の混在事例が合計28事例と多いことが特徴的であった。また、平成20年2月から3月までにロタウイルス感染症が小学校で3事例(1事例はC群ロタウイルス)、病院で1事例、高齢者施設で1事例発生した。サポウイルスについては平成19年5月に修学旅行先で食中毒が疑われた中学校の事例が、6月に福祉施設で感染症による事例が発生した。

今年度のノロウイルス感染症による集団発生は85事例で、昨年度(87事例)とほぼ同じであった。その事例数の内訳は、高齢者施設28、保育園・幼稚園11、小学校28、中学校1、病院10、福祉施設4、その他3、の計85事例であり、小学校の事例が昨年度(1事例)から大幅に増加した。

また、平成11年度より市内市販品の生食用カキにおけるノロウイルスの汚染状況調査として、収去品の検査を実施している。本年度は本場、南部の両市場検査所でカキ中腸腺からのウイルスRNAの抽出、cDNAの合成までを行い、当所でリアルタイムPCR(ABI7900)によるノロウイルス遺伝子の定量検査を実施した。その検査結果は、84検体(パック)中4検体が陽性であった。また、本年度から加工・調理された二枚貝についても検査対象として11検体加え、検査を実施したが全て陰性であった。

#### 肝炎ウイルス検査(平成19年度)

平成14年度に厚生労働省老健局老人保健課より「肝炎ウイルス検診等実施要領」が示され、本市でも平成14年度から各区福祉保健センターで実施されている基本健康診査においてC型及びB型肝炎ウイルス検査を導入している。方法は、節目検診と称して、満40、45、50、55、60歳の受診者を対象とし、5歳毎の年齢の時に1回限り検査を受診できるシステムで、検査を当所が担当している。本年度は5年事業が1年延長されての6年目で、検査総数は5,043件で、前年度(2,144件)より大幅に増加した。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は134名(2.7%)、B型肝炎ウイルス陽性者は38名(0.8%)であった。

なお、平成14年度より行っている各区保健福祉センターにおける一般外来での12月までの有料扱い(上記以外の対象者)の検査総数は266件でしたであった。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は18名(6.5%)でしたであった。

受診者数の大幅な増加は平成19年11月のC型肝炎訴訟の報道開始と、平成20年1月からの無料肝炎検査の開始に伴うものである。

#### HIV検査(平成19年度)

HIV無料匿名検査は、各福祉保健センターで実施している一般依頼検査、横浜AIDS市民活動センターでの夜間検査(18:00~19:30)、結核予防会中央相談所での土曜検査(14:00~18:00)の3つの受付窓口がある。それらから依頼されたHIVのスクリーニング検査は、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。また、平成17年度からは、結核予防会中央相談所の土曜検査で、即日検査が選択できるようになった。本年度の取扱件数は総数3,296件で、その内訳は、一般依頼検査:1,847件、夜間検査:988件、土曜検査:2,297件(通常検査:461件、即日検査:1,836件)であった。その内、陽性11件(前年度18件)の内訳は、一般依頼検査:2件、夜間検査:7件、土曜検査:2件(通常検査:0件、即日検査:2件)であった。さらに、夜間検査においては、10月から任意希望で梅毒検査も受けられるようになったことに伴い、当所で536件の抗体検査を実施した。また、神奈川区でHIV検査等のイベントが行われ、その件数は106件であり、そのうち梅毒検査希望者は99件であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。本年度の検査件数は、患者数53名による55件であり、その内新患は45名であった。